館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

『生き心地の良い町
―この自殺率の低さには理由がある―』
岡檀／著　講談社

徳島県旧海部（かいふ）町。この地域は全国でも極めて自殺率の低い「自殺希少地域」であると言われています。著者は現地でのインタビューや他地区との生活環境の比較等、地道で綿密な調査から、その理由を明らかにしていきます。元が研究論文であることを全く感じさせない文体でありながら、研究の過程はしっかり説明されており、その結論に、思わず「なるほど」とうなずいていました。自分達の町を生き心地良くするためのヒントが、この本にはつまっています。（丸山）

フレーズ&センテンス

「いろんな人がいてもよい、いろんな人がいたほうがよい」

記念日から見つける、とっておきの一冊。

毎年9月1日は「防災の日」。1960年に、内閣の閣議了解により制定されました。日付は1923年9月1日に発生した、関東大震災にちなんだものであると言われています。今回は、この防災に役立つ本を紹介します。

東日本大震災から事あるごとに地震が起こり、耐震や被災時の準備など気にされている方も多いと思います。何をどう準備すればいいのか、実際被災してしまった時、どう行動すればいいのか、この本に全て載っています。それだけでなく、防災方法もバッチリです。またこの日は、「災害への備えを怠らないように」といった戒めもこめられているので、今一度防災の為に読んでみてはいかがでしょうか？（影山）

『知っておきたい
防災新常識大事典』
国崎信江／監修　洋泉社

こんな本もありますよ　『生き延びるための非常食[最強]ガイド』
エクスナレッジ編集部／編　エクスナレッジ

『じしんのえほん　こんなときどうするの？』
国崎信江／作　ポプラ社

「誰か × 誰か」「誰か × 何か」の組み合わせが面白い。

かける×本精読

高校生 × 憲法

「10代の憲法な毎日」
伊藤真／著　岩波書店

「憲法」と聞くと堅苦しいイメージ、自分の生活にどう関わっているのかよく分からない、というイメージがあります。

今回紹介するのはそんな堅苦しい憲法を身近に感じさせてくれる1冊です。高校生が身近な様々な疑問を憲法の視点から見ていきます。

例えば、茶髪にすること。校則で禁止されている学校もある一方、憲法では表現の自由が保障されている。じゃあ、どちらが正しいのだろう？　そんな高校生の疑問を憲法学者が一緒に考えていきます。（大塚）

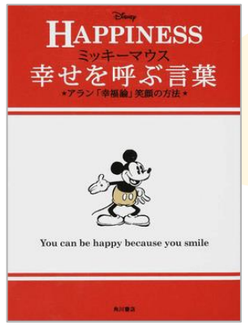
NDCを知って図書館を有効活用！

What's NDC

ここでは図書館の本を分類する際に使われる「日本十進分類法」について説明します。NDCとは簡単にいうと、0～9の10のジャンルの分類方法のことをいいます。

今回は「1」。1は哲学です。ただ、哲学だけではなく、心理学や倫理、宗教もここに分類されます。難しい思想書だけでなく、気軽に読める自己啓発書まで様々な本があります。

哲学というと難しく読むのは大変そうというイメージがありますが、今回紹介する本は、ミッキーマウスのイラストともに、アランの「幸福論」の格言を気軽に読むことができます。アランの言葉は、毎日の生活を幸福に、前向きに生きるためのヒントを教えてくれます。哲学に興味はあるけれど、ちょっと手が出しにくいという方におすすめです。（坂井）



Vol.2
「ミッキーマウス
幸せを呼ぶ言葉」
アラン／著　KADOKAWA

第29回

江戸から湯長谷藩へと帰ってきた藩主・内藤政醇。ところがすぐに江戸から5日で参勤交代せよと連絡を受ける。5日では時間がないし、飢饉の後のため、金もない。ないものづくしの中で湯長谷藩は江戸まで少人数で走りつづけ、役人のいるところだけ、行列をつくるという案を考え、藩主と共に走り出す。

原作本から入っても良し、映画から入っても良し。

Cinema library

今回は続編が公開されるという事で、この1冊を選んでみました。

走り続ける話とあって、小説も疾走感があり、時代物ですがすらすら読めます。また、ただ走るだけでなく、襲ってくる刺客を倒したり、恋愛をしたり、悪い老中をたおしたり…と、アクション、恋愛、時代劇と様々なジャンルがぎゅっと詰め込まれています。

映画でもこのごちゃまぜ感は健在。次々と事件が起きて、力技やとんちで解決していく様を見ていると、あっという間に観終わってしまう作品です。（大塚）

次回は『ダヴィンチコード』です。お楽しみに！

原作「超高速！参勤交代」
土橋章宏／著　講談社

映画「超高速参勤交代」
佐々木蔵之介、
深田恭子／出演